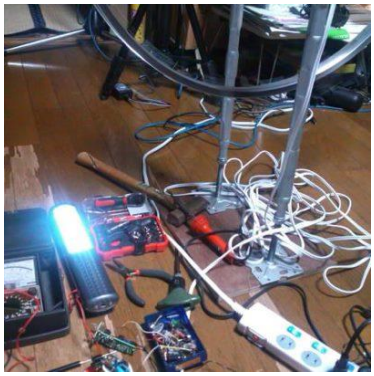
<小水力ニュース>　エコ電力でまちづくりの実践 ～殿川小水力発電チーム の挑戦～

小水力でまちづくり。すでに実践が始まり、殿川地区（中竜門地区）では、殿川小水力発電研究会が発足。ピコ発電第１号が誕生しています！

殿川地区は S22 年小名・色生番地の中に国の施策により開拓村として入植した村。過疎化が進んでおり、夜には真っ暗になってしまうため、集会所までの道がわかるよう、お年寄りの足元を照らすことを目的に実験を開始。吉野町で最も流量の少ない殿川地区集会所前の水路に設置することになりました。ここで実現できたら吉野町のどこでもできる。ここまでは自分たちでもできるよと見せる発電を行い、人をやる気にして動かすという、人材育成も目的の１つです。

となりの三茶屋地区では４０年前に地域-で使われていた自転車発電機器も見つかりました。手づくりながらしっかりと溶接された、まさに地域の貴重な遺産。専門家の先生にも見ていただき、地域のみんなで話し合い、先人に学び、これを復元してみよう！と、吉野町発のピコ発電製作への挑戦が始まりました。



しかし、製作には苦労が伴いました。回路の設計中、配線やネジの大きさが合わなかったり、試行錯誤、改善改良を重ね、システム担当の新谷氏の苦心が続きました。既製品ではシステム内容が見えません。しかし、１つ１つ手づくりすればその技術も知恵も改善策も地域に残ります。小水力を公共財産として位置付け、製作過程もオープンにしていこうという意気込みで設計がすすめられました。

ついに、LED ランプが灯り、いよいよあとはデザイン・設置担当の荒木氏へと移ります。水量の少なさは堰を作って水を集め、バケットに水が当たるよう取水口にも工夫を重ねました。上流では蛍を育てるグループもいて、流量を増やそうとしても堰を高くすることはできません。地域との調整もしながらの設置でした。

夜間の点灯実験が行われ１２時間連続点灯が確認されました。さらに昼間の充電の実験もおこなわれました。実験で、早速次の課題が見え、１１月４日には予定通りお披露目できることになりました。エンドレスで充電しながら発電できる、第１号実験機。可動式にもしたいと次の夢が膨らんでいます。さらに電圧を上げるための回路の改良、取水の形やバケットの形状の改良ができました。１２月２５日にミニクリスマスツリーの点灯式をします。殿川バンドのコンサート・懇親会も開催することになりました。

吉野町で一番小さな発電かもしれません。でもこの灯は吉野町の未来を照らす光、住民パワーで大きなビジョンを実現させることをめざした、大きな第一歩なのです。自然エネルギーを利用した発電は、結局人の力が結集してはじめて実現するものだということを、殿川チームの挑戦を見て実感されるのではないでしょうか。誰もがエコ電力でまちづくりに参加できるのです。その場をこれから作っていきます。ぜひ地域での小水力発電に、様々な形で参加してみて下さい。

吉野町小水力利用推進協議会準備会　事務局　岸田かおる　　hucac@nifty.com 090-6666-6153
吉野町少子力利用推進グループ　　http://yoshinohepg.jimdo.com/